

授業科目名	在宅看護実習			担当教員	西村 和美、上野 満里
開講年次	3年後期	セメスター	6	時間数(単位数)	90 (2)
必修選択	必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、訪問看護で提供する看護援助の方法を学ぶ。また、在宅ケアシステムにおける専門職種間の連携・協働を理解するとともに、その中で果たす看護職の役割を考える。				
到達目標	<p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の療養生活における健康上の課題、および生活について理解することができる。 2. 在宅療養者とその家族を身体・心理・社会的側面ばかりでなく、環境・文化・経済的側面からもとらえ、実際の援助活動を通して看護の役割を理解できる。 3. 在宅ケアチームの連携の実際が理解できる。 4. 在宅療養者とその家族の看護に必要な態度を身につけることができる。 5. 在宅ケアにおける看護職の果たすべき役割と課題について考えることができる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
	<p>1. 実習方法</p> <p>2週間のうち、訪問看護ステーション8日間を臨地で実習し、学内で2日(3日目、最終日)実習する。各事業所につき学生2～4名ずつで実施する。</p> <p>訪問看護ステーションでの実習では、受持療養者を数回(原則として3回以上)訪問できる方とする。3日目の学内実習では、1回目の同行訪問による情報から全体像をまとめ、看護計画立案を行う。その後、受持療養者に同行訪問する度に、看護師が行う臨床判断やケアの正しい理解と、療養者へのアセスメントを重ね、最終訪問日に学生は、看護計画を実施し、評価を行う。また、受持療養者以外の訪問看護にも同行し(1～4件/日)、さまざまな背景の療養者の生活と看護を学ぶ。カンファレンスは、中間と終了時の2回行い、中間カンファレンスでは、関連図、実施計画の発表を行い、終了カンファレンスでは、最終訪問の計画の実施・評価と全体的な学びを討議する。最終日の学内実習では、グループ討議や全体討議を通して学習のまとめやフィードバックを行う。</p>		<p>事前課題：ワークブック(7月配布)活用し、実習前に在宅看護I, IIを復習しておく。</p> <p>実習準備：実習要項の在宅看護実習の該当欄をよく読み、実習目的、目標を理解する。</p> <p>実習直前：在宅看護実習で学びたいこと(自己の実習目標)について、A4用紙1枚にまとめる。</p>	<p>4日</p> <p>1時間</p> <p>1時間</p>	<p>西村 上野</p> <p>担当教員</p>

2. 実習施設（訪問看護ステーションのみ記載） 福岡赤十字訪問看護ステーション、嘉麻赤十字訪問看護ステーション、今津赤十字訪問看護ステーション、訪問看護ステーションむなかた、宗像医師会訪問看護ステーション、赤間病院訪問看護ステーション、なごみ訪問看護ステーション、博多みずほ訪問看護ステーション、みずき訪問看護ステーション、アップルハート訪問看護ステーション（福岡、糟屋、宗像、小倉南、福岡東）、香椎原病院地域ケアセンター かしいの杜 訪問看護あやすぎ、楽らくサポートセンターレスピケアナース																
先行履修科目	3年前期に開設する全ての必修科目															
テキスト	在宅看護Ⅰ・Ⅱで使ったテキストおよび資料															
参考文献	実習に関連する文献は学生各自で収集し、活用する。															
科目の位置づけ	レベルⅣ実習の1つである。在宅看護Ⅰ、在宅看護Ⅱで学修した内容を踏まえ、実践の場でさらに在宅看護を学ぶ。 実習目標を達成するための詳細な到達目標は、本学ディプロマポリシーに掲げる5つの能力「人間の尊厳と権利を擁護する力」「自己教育力」「チームで働く力」「問題解決力」「看護の専門性を探究する力」別に18項目設定しており、評価表（ルーブリック）活用して達成度を自己評価、および他者評価する。															
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力 ○	自己教育力 ○	チームで働く力 ○	問題解決力 ◎	看護の専門性を探究する力 ○											
評価方法	実習評価表（88%）、事前課題を含む取組状況（12%） 遅刻・早退：1点、欠席：2点の減点となる。 ディプロマポリシーとルーブリック評価表（項目数/評価点）の内訳 <table border="1" data-bbox="416 1451 1334 1794" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>ディプロマポリシーの5つの力</th> <th>項目数/評価割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間の尊厳と権利を擁護する力</td> <td>2項目/12点</td> </tr> <tr> <td>自己教育力</td> <td>6項目/20点</td> </tr> <tr> <td>チームで働く力</td> <td>3項目/16点</td> </tr> <tr> <td>問題解決力</td> <td>6項目/32点</td> </tr> <tr> <td>看護の専門性を探究する力</td> <td>1項目/8点</td> </tr> </tbody> </table>				ディプロマポリシーの5つの力	項目数/評価割合	人間の尊厳と権利を擁護する力	2項目/12点	自己教育力	6項目/20点	チームで働く力	3項目/16点	問題解決力	6項目/32点	看護の専門性を探究する力	1項目/8点
ディプロマポリシーの5つの力	項目数/評価割合															
人間の尊厳と権利を擁護する力	2項目/12点															
自己教育力	6項目/20点															
チームで働く力	3項目/16点															
問題解決力	6項目/32点															
看護の専門性を探究する力	1項目/8点															